

日本の文化遺産のこれからに向けて

里山、里川など身近な環境の文化的な価値が理解されるようになりました。日本では白川郷や石見銀山が世界文化遺産に指定され、今後の地域づくりの拠点として期待されています。今後、このような文化遺産を地域づくりの中でどのように活かしていくことが大切なのでしょうか？ 白川郷や石見銀山などを事例に考えたいと思います。

■と き：2012年11月10日(土)17時30分～19時

■場 所：宮津市中央公民館大会議室（みやづ歴史の館）座席100席

■参加費：無料（申し込み不要）



保管(ニュー) 白川村役場資料



合掌造り家屋 白川村役場資料



養蚕 細江光洋(1996)『世界遺産白川郷—幻の集落を巡って50年』より

茅葺の建物をめぐる輪



カヤ場



焼き畑

飛越合掌文化研究会(1996)『世界遺産の合掌造り集落』より



稲作 白川村役場資料



石見銀山・大森地区

司会：三好岩生（京都府立大学）

趣旨説明：飯尾 毅（世屋の里川を考える会代表）

【講演】「日本の文化遺産～地域の文化を活かすために大切なこと」

黒田乃生（筑波大学世界文化遺産専攻・准教授）

黒田先生が取り組む主な研究・調査

■石見銀山に関する研究：世界遺産の「石見銀山遺跡とその文化的景観」は80%以上が森林に覆われています。森林に隠された文化遺産の価値を見つけ、それを地域のかたと一緒に学び伝えていくのが目標です。また、世界遺産地域の中にある大森小学校の先生と生徒さんたちとワークショップをします。地域の素晴らしさを認識し、それをほかの人に伝えることができるような取り組みにつなげることが目標です。

■白川村の遠山家の活用：委員会の委員として、かつて「大家族」が生活していたことで大変有名だった、合掌造り家屋の国指定重要文化財旧遠山家住宅を今後どのように活用していくのかを村の担当者や地域の方と一緒に考えています。

主催：世屋の里川を考える会 (<http://www.satoyama-net-seya.org/>) 里川プロジェクト

1)

この講演は京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金の支援を得て実施されます